

実践タイトル

学ぶ喜びを実感する児童の育成

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板
実物投影機

- ・資料の場面絵を提示し目線を上げて集中させる。
- ・児童のワークシートや生活表を大きく映すことで、個々の考えを共有する。

プレゼンテーションソフトウェアの資料
動画

- ・資料の内容を把握させる。
- ・動画で印象づけ、日常場面からの価値を深める。

参考にしてほしいポイント

- ・読み物資料を、紙で渡すのではなく、プレゼンテーションソフトウェアを用いて効果的に提示することで、クラス全員が資料の内容をしっかりと把握することができる。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入 0 5	・家庭で行っている仕事について、家族へインタビューした動画を見て、働くことに対する問題意識を持つ。	・家庭へのインタビュー動画
展開 5 30	・小学校道徳読み物資料集「もりのゆうびん屋さん」をプレゼンテーションソフトウェアと教師の語りで聞く。(写真1) ・場面絵をプレゼンテーションソフトウェアで見ながら「やぎじいさんに『ありがとう』と言われたくまさんはどんな気持ちだったのか?」を考える。 ・ワークシートに自分の考えを書く。 ・電子黒板に取り込まれたワークシートの大事なところに線を引きながら発表する。 ・くまさんの仕事にける思いを理解する。 ・お手伝いについて、家族がどう思っているか動画を見て考える。(写真2)	・資料の場面絵と台詞等を入れたプレゼンテーションソフトウェア(写真1) ・ワークシートを映す実物投影機 ・電子黒板のキャプチャ機能 ・電子黒板の拡大機能 ・家庭へのインタビュー動画(写真2)
まとめ 30 45	・「冬休みの生活表」を見ながらみんなのお手伝いを交流する。 ・年末にかかわる家庭の仕事プレゼンテーションソフトウェアで見ることで、働くことの意義についての価値を深める。 ・自分たちの手伝いを振り返って話し合う。 ・家族が自分たちの働きぶりをどう見ているのかを知り、働くことについての課題を持つ。	・電子黒板のキャプチャ機能 ・年末にかかわる家族の仕事に関するプレゼンテーションソフトウェア



写真1: 電子黒板を用いた資料の読み聞かせ



写真2: お手伝いについての家族へのインタビュー動画



写真3: 電子黒板と連動しながら、資料から考えた児童の意見を構造的に板書

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・家庭で行っている仕事についてのインタビューを動画で見ることで、働くことへの問題意識を生むことができた。
- ・電子黒板を用いて読み聞かせすることによって、児童は資料をイメージを膨らませながら聞くことができ、資料の世界に浸ることができた。
- ・児童のワークシートを電子黒板にキャプチャして大きく映しながら発表を行うことによって、個々の意見が全体に伝わりやすくなった。

活用効果

評価の観点

- ・関心・意欲・態度
- ・道徳的価値の内面化

具体的変容

- ・プレゼンテーションソフトウェアによる場面絵や台詞の提示によって、資料に興味関心を持ち、自分ごととして考えやすくなった。

実践の手応え

- ・プレゼンテーションソフトウェアや動画、実物投影機などを電子黒板に映し、構造的に児童の考えを板書して互いに連動させながら指導を行うことによって、児童は学習している内容をより実感を持って考えやすくなった。